

医学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

ICTを利用して医学に関する情報の収集・蓄積・分析・発信ができる。

【到達度】

- コンピュータやネットワーク、アプリケーションソフトを適切に利用できる。
- 医学に関する情報の所在、構成、背景を理解し利用できる。
- インターネットを用いて、医学に関する適正な情報を検索し、選別できる。
- 選別した情報を用いて、解析・判断し、研究・診療計画ができる。
- 多様なICTを用いて、情報倫理に配慮した適切なプレゼンテーションができる。

【教育内容・教育方法】

- は、初年次教育、共通教育などで培った基礎的なスキルを用いる。
- と は、情報検索を実施し、信頼性の高い文献データや診療ガイドライン、適切なWebサイトに接続させ、情報収集の演習を行う。
- は、事例を用いて問題解決のために情報をEBMに準じて処理し、その結果の妥当性を評価・判定する演習を行う。
- は、引用や剽窃などに留意して、プレゼンテーション、コミュニケーションの実習を行う。

【到達度確認の測定手段】

- ～ は、小テスト、口頭試問、レポート、プレゼンテーション、学修支援システムなどにより確認する。
- は、実技の観察評価及び学生の相互評価を含め、確認する。

【到達目標 2】

ICTを用いた医療情報の仕組みを理解し、患者情報の保護に配慮して利用できる。

【到達度】

- 病院等の医療施設で取り扱う情報の基本を説明し、正しく取り扱える。
- 医療情報システムの仕組みを概説できる。
- 患者情報保護の重要性を説明し、これを実践できる。

【教育内容・教育方法】

- は、電子データを含む多様なデータの特徴とメリット・デメリットを教え、臨床実習で実践させる。
- は、病院等の医療施設における情報の流れを体得させ、特性を理解させる。
- は、患者情報保護の原則を学び、事例検討を行い、臨床実習で実践させる。

【到達度確認の測定手段】

- ～ は、小テスト、口頭試問、レポート、プレゼンテーション、臨床実習での観察評価などにより確認する。